【最優秀賞】

総合住宅展示場の災害拠点化

井村　理恵（旭化成ホームズ株式会社）

■概要■

総合住宅展示場の会場全体を災害拠点とする。
そのための規程や設備・備品を整備して災害発生時は地域に開放する。

総合住宅展示場では、地震大国日本における耐震性の高さや災害時の強さを売りに各社出展しており、
最近では、太陽光パネルや蓄電池を実際に搭載している展示場も増えている。
耐震性が高くて太陽光や蓄電池を搭載した建物、ゆとりのある敷地など、
一般街区よりも高い品質の家が揃うこの場所で、地域住民の方々へ安心・安全を提供する。

また、日常的には防災意識を高めるためのイベントを実施して近隣住民を呼び込み、
家づくり時以外でも総合住宅展示場へ足を運んでいただくことで身近な災害拠点として認知してもらう。
そして災害について住民とともに学び、非常時に地域に貢献できる場を提供する。
上記目的を達成するために研究会を発足させ、運用方法の基本プランを構築する。

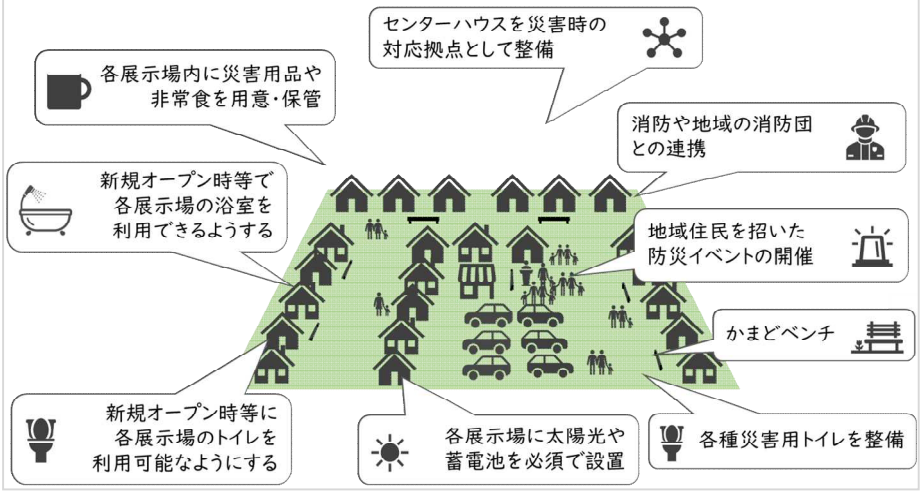
- 総合住宅展示場のもつメリットを最大限活かす
  - 平常時：防災意識を高める場
  - 非常時：在宅避難と公共施設避難の中間的な避難場所
- 総合住宅展示場を地域住民に身近に感じてもらう仕掛け

住宅関連業界としての社会貢献・地域貢献

新たな顧客創出・需要創出

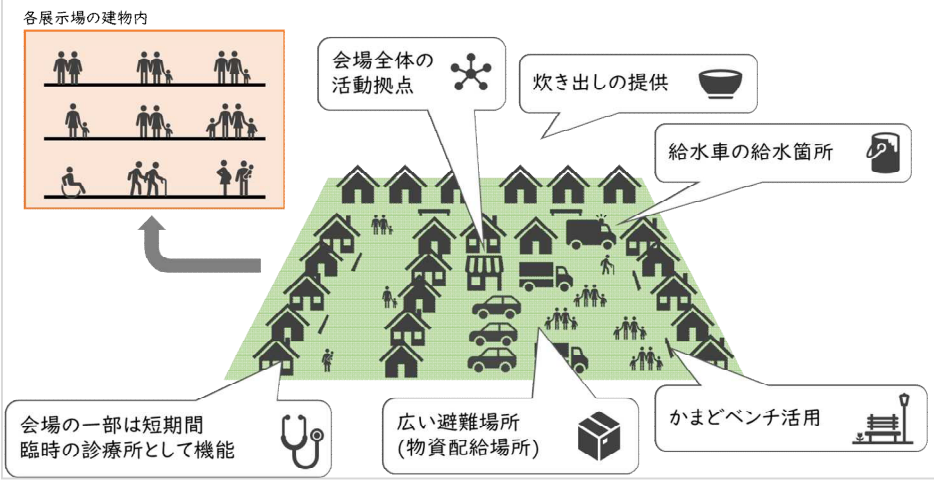
提案の詳細：平常時

- 災害対応用の設備、備品の拡充（規程を決めて、各社で実施）
- 災害対策イベントの開催（地域の消防、消防団との連携）



提案の詳細：非常時（会場全体）

- 炊き出しや給水車の供給場所としての提供
- 一部は臨時の診療所としての機能を担っても良い
- センターハウスは会場全体の活動拠点となる



提案の詳細：非常時(展示場内)

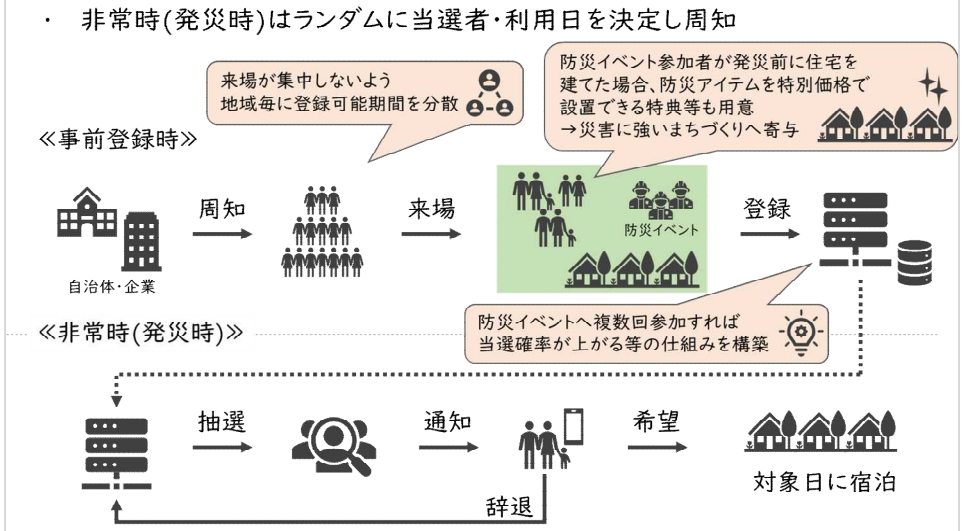
- 各展示場の建物内に、各階3家族ずつを目安に1～2泊ずつ宿泊いただく
  ＊宿泊日数に上限を設け、より多くの方に宿泊いただく
- 滞在空間は家族ごとに展示場の各居室や空間を割り当てる
  ＊LDK等広い連続空間の場合、2～3の家族で共有する。

目安*：3階建100坪で1度に9世帯宿泊

各展示場の建物内 ＊実際の宿泊可能人数は会場ごとに決定

運用方法(案)

- 事前の登録制とし、抽選で運用
- 企業・自治体から地域住民へ周知し、登録は会場で実施
- 非常時(発災時)はランダムに当選者・利用日を決定し周知



提案の課題

事前対応

- 備品の保管場所
- 自治体等との運用規程作成、合意

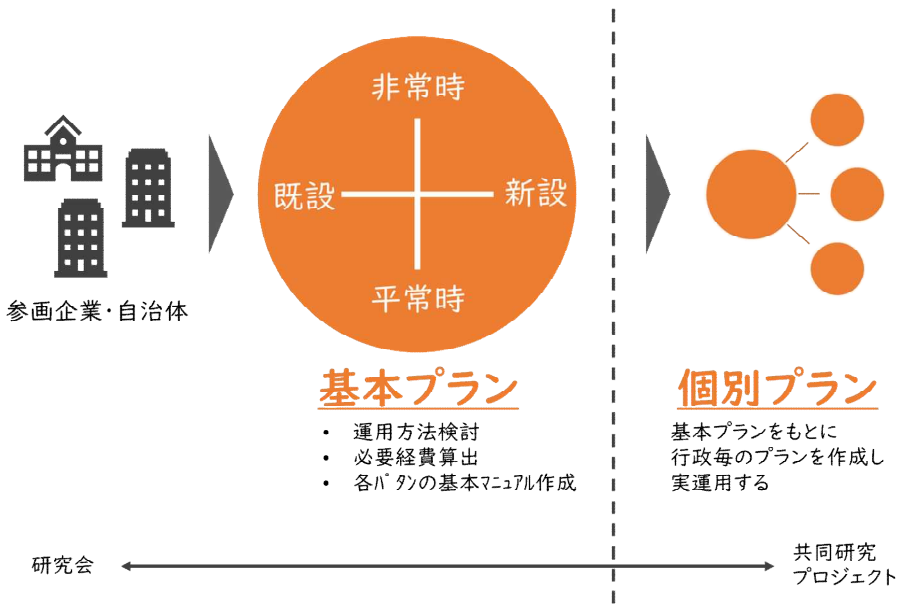
発災時の実運用

- 事務局構成・・・最小限で回せるよう検討が必要
  - ・一時的に会場を自治体配下に置く
  - ・運営スタッフは関連企業各社からの従業員派遣、市民ボランティア等
- 詳細な運用マニュアル作成

費用

- 環境・備品整備費用や維持管理費用をどう賄うか

研究会での取組内容



研究会

参加メンバー：―
期間　：　―
内容　：　―